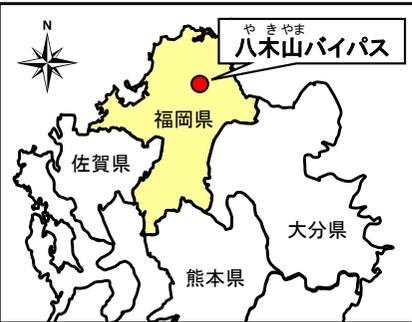


国道201号 八木山バイパス【直轄】

- 国道201号八木山バイパスは、福岡都市圏と筑豊地域を結ぶ国道201号の2車線区間を4車線化することにより、交通ボトルネックを解消し、信頼性の高いネットワークを構築するとともに、対面通行区間を解消し、安全・安心の確保を目的とする4車線拡幅事業。
- 災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、国道201号八木山バイパスの改良工事、橋梁下部工事、橋梁床版工事を実施することで、篠栗IC～筑穂IC間の令和6年度の開通、筑穂IC～穂波東IC間の令和11年度の開通を確実にし、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》



《諸元等》

事業区間：福岡県糟屋郡篠栗町篠栗
～飯塚市弁分

延長：13.3km

全体事業費：360億円

R3補正：4.0億円

《整備効果》

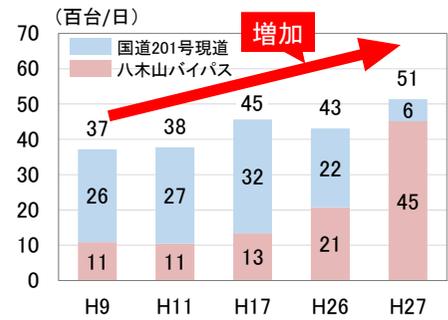
【写真①】スタック車両の発生状況



【写真②】正面衝突事故の発生状況



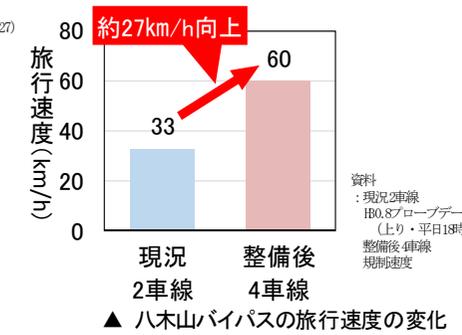
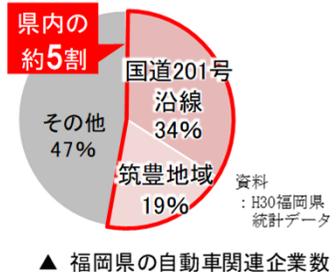
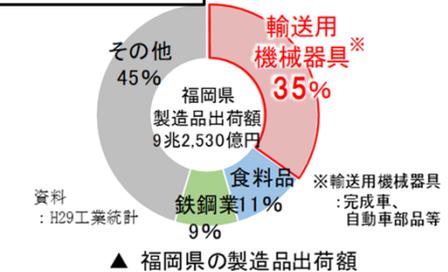
《路線位置図》



八木山バイパス 通行規制の発生状況 (H27～H29(3年間))

資料：国土交通省資料

規制時間	件数	割合
～1時間	5	12%
1～3時間	24	59%
3～5時間	7	17%
5時間～	2	5%
不明	3	7%
合計	41	100%



福岡209号 電線共同溝【直轄】

- 無電柱化は、防災、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図ることを目的として事業を推進。
- 当該箇所の無電柱化を図ることで、災害時における緊急輸送道路の確保並びに安全で快適な通行空間の確保を図るとともに、良好な都市景観の形成に向けたまちづくりを支援。

○国道209号 羽犬塚地区電線共同溝

《位置図》 《諸元等》



事業区間 : 福岡県筑後市山ノ井
 ～福岡県筑後市熊野

整備延長 : 3.3 km (両側)

全体事業費 : 約4.4億円

R3補正 : 2.5億円

羽犬塚地区電線共同溝

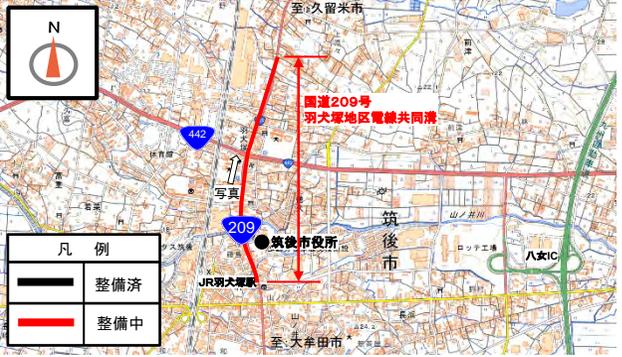
○整備の必要性

○道路上の電柱は、災害時の倒壊により道路を閉塞させるおそれがあるほか、歩行者等の通行や良好な都市景観の形成の妨げとなる



<電柱の倒壊による道路閉塞の事例> <飛来物による電柱倒壊の事例> <歩行者の支障となる電柱の事例>

《路線位置図》



至久留米市

至大牟田市

凡例

—	整備済
—	整備中

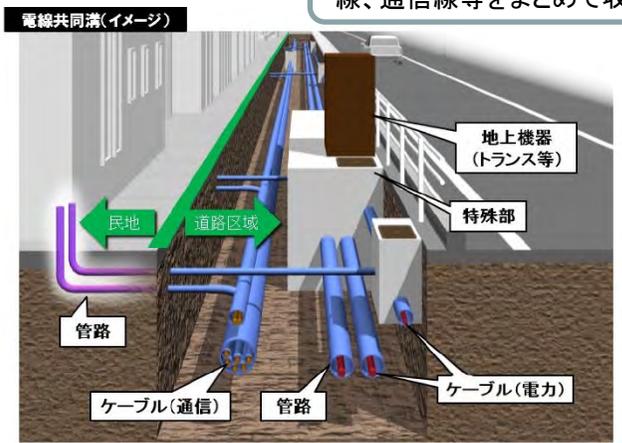
《現地状況》



※工事着手前

○電線共同溝とは

道路の地下空間を活用して電力線、通信線等をまとめて収容



(主) 鳥栖朝倉線(味坂SIC(仮称)工区)【補助】

- 主要地方道鳥栖朝倉線は、佐賀県鳥栖市を起点とし、福岡県小郡市を経て、福岡県朝倉市に至る延長23kmの広域的な幹線道路。当該区間は、国道3号と主要地方道久留米小郡線を結ぶ道路であり、味坂スマートIC(仮称)へのアクセス機能を有する道路。
- 災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、九州縦貫自動車道の味坂スマートIC(仮称)へのアクセス道路である主要地方道鳥栖朝倉線の改良工事、橋梁上部工事を実施することで令和5年度の開通を確実にし、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》



《諸元等》

- 事業区間：佐賀県鳥栖市酒井西町
～福岡県小郡市福童
- 延長：1.6km
- 全体事業費：122億円
- R3補正：14.3億円
(うち福岡県9.5億円、佐賀県4.8億円)

《現地状況写真》



▲ 佐賀県側 工事状況

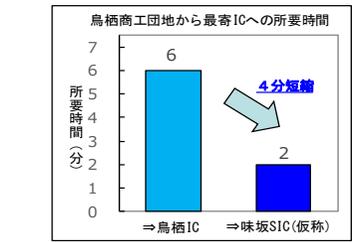
▲ 国道3号混雑状況

《平面図》



《整備効果》

- 第1次緊急輸送道路である九州縦貫自動車道への連結により、緊急輸送道路ネットワーク機能が強化され、迅速な救援・救助、復旧・供給活動を支援
- 物流の効率化により、地域産業の生産性の向上や企業誘致を促進



▲ 鳥栖商工団地での仕分け状況
※平成28年4月の熊本地震時には支援物資の集積地として被災地への供給を実施



国道208号 大川佐賀道路【直轄】

■大川佐賀道路は、重要港湾三池港、九州佐賀国際空港などの広域交通拠点及び有明海沿岸の都市群を連携する高規格道路「有明海沿岸道路」の一部を構成する道路。

■災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、国道208号大川佐賀道路の(仮称)諸富IC～(仮称)川副IC間における改良工事及び、(仮称)諸富IC～(仮称)佐賀JCT間における用地買収を実施することで、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》



《諸元等》

事業区間：福岡県大川市大野島～佐賀県佐賀市嘉瀬町

延長：9.0 km

全体事業費：898億円

R3補正：9.7億円(福岡県0.0億円、佐賀県9.7億円)

《整備効果》

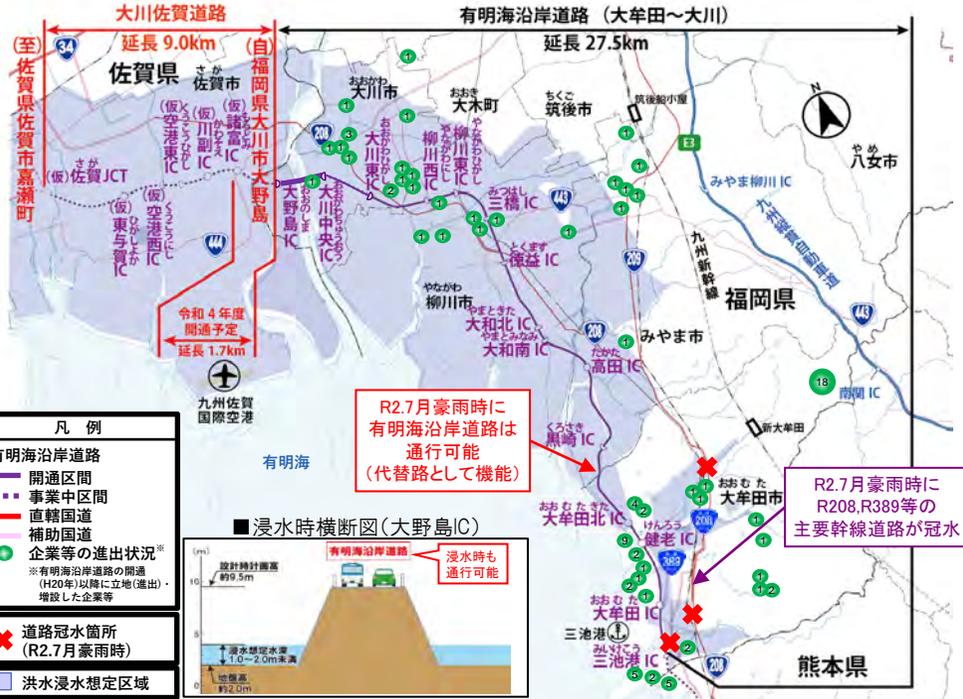
■当該道路の整備により、洪水浸水想定区域を回避する道路ネットワークを形成



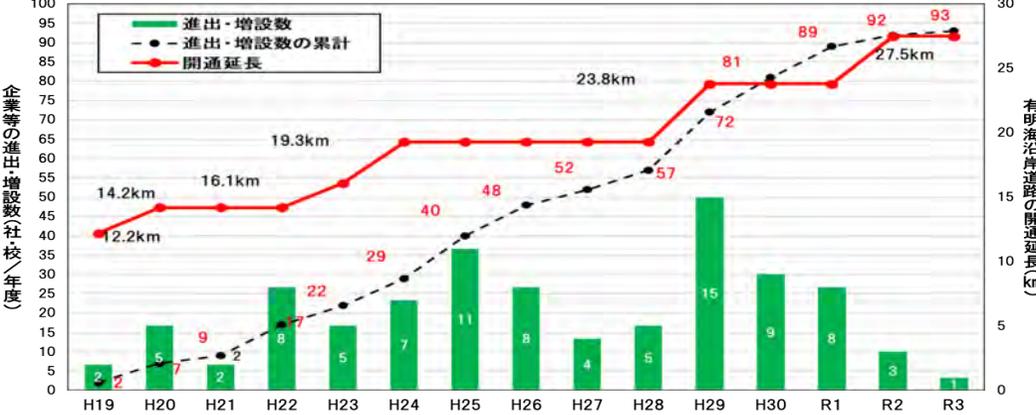
◆令和2年7月豪雨
国道208号 道路冠水状況(大牟田市旭町)

◆令和2年7月豪雨
国道389号 道路冠水状況(大牟田市三川町)

《路線位置図》



■今後期待される効果



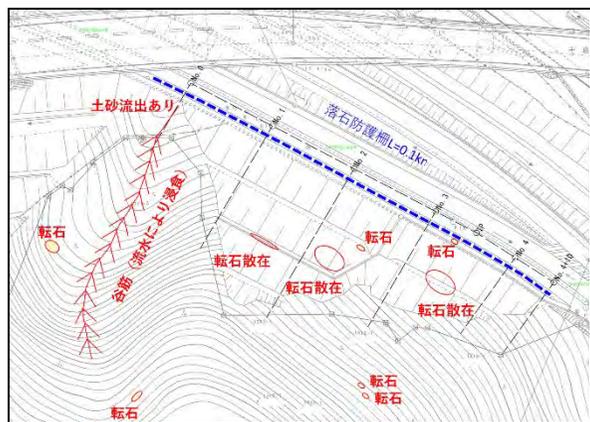
佐賀203号 維持管理(防災・減災対策)【直轄】

- 国道203号は、佐賀県唐津市を起点とし佐賀県佐賀市に至る全長約40kmの主要幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に指定。
- 土砂災害等による道路の通行止めリスクを解消するため、補正予算の充当により、国道203号唐津市厳木地区において、落石防護柵工等の法面对策工事を実施することで、豪雨による土砂災害発生防止を図る。

《位置図》



《平面図》



《諸元等》

事業区間 : 佐賀県唐津市
 ~ 佐賀県小城市
 延長 : 約34km
 R3補正 : 1.06億円

《対策イメージ》



《現状》

転石状況

土砂流出状況



【防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保】

国道208号 佐賀道路【補助】

- 佐賀道路は、佐賀唐津道路の一部を構成し、国道208号の交通混雑の緩和や、交通安全の確保を図るとともに、災害発生時の救急・救援物資の輸送機能の強化、医療施設への救急搬送時間の短縮などを目的とする道路。
- 災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、佐賀道路の改良工事を実施することで、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》



《諸元等》

- 事業区間：佐賀県佐賀市鍋島町森田～嘉瀬町中原
- 延 長： 4.2 km
- 全体事業費： 368億円
- R3補正：15.0億円

《現地状況写真》



▲(仮)嘉瀬IC～(仮)佐賀JCT間の工事状況



▲現道(国道208号 八戸交差点)の混雑状況

《平面図》



《整備効果》

- 第1次緊急輸送道路である九州横断自動車道長崎大分線と有明海沿岸道路を連絡し、災害時の輸送機能を強化
- 災害時における航空輸送施設に指定されている九州佐賀国際空港や防災航空センターへのアクセス性を強化し、迅速な救援・救助、復旧・供給活動を支援



航空輸送施設(指定)
九州佐賀国際空港、防災航空センター

▲佐賀県防災航空センター (令和3年3月開所)

▶消防防災ヘリコプター「かちどき」 (令和3年3月運行開始)

各地から佐賀道路などを使って、人員・物資などを防災センターに輸送し、防災ヘリコプターにより、孤立した被災地等への輸送が可能となる。

(主)長崎南環状線(新戸町~江川町工区)【補助】

- 国道499号では慢性的な渋滞が発生していることから、重要港湾「長崎港」へのアクセス性向上と交通円滑化を図るため、バイパスの整備を行うことにより、生産性向上を支援する物流ネットワークの確保を目的とした道路。
- 迅速かつ円滑な物流・人流を確保するため、補正予算の充当により、主要地方道長崎南環状線の改良工事、橋梁下部工事を推進することで、地方を支える産業等の生産性向上に寄与するミッシングリンクや空港・港湾など広域交通拠点とのアクセス道路等の重点整備等を推進。

《位置図》



《諸元等》

- 事業区間：長崎県長崎市新戸町~長崎市江川町
- 延長：5.2km
- 全体事業費：250億円
- OR3補正：7.9億円

《平面図》



《整備効果》

- ・ バイパスの整備により、新戸町IC~長崎港間の所要時間が約6分短縮されることで、県下有数の産業都市である諫早市と長崎港とのアクセスが向上するとともに、定時性が確保される。
- ・ 並行する国道499号に集中していた交通が分散されることで、渋滞緩和が図られる。

諫早市の製造品出荷額は4,179億円 (R1工業統計) で県下有数の産業都市

半導体企業、航空・宇宙関連企業、など約200社が集積。全従業員数約10,000人



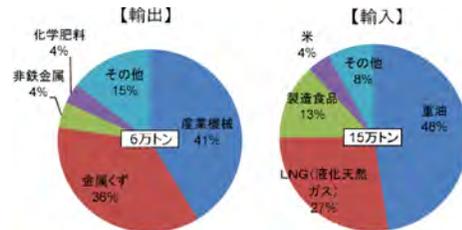
諫早市 製造品出荷額推移



出典: R1工業統計調査

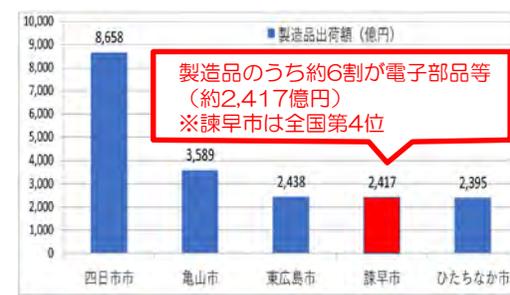
長崎港 年次貨物量推移

- ・ 輸出では産業機械が41%を占める。
- ・ 輸入では背後地域の産業を支える品目が多い。
- ・ 長崎港で取り扱う物資の大半は、県内で生産された製品、もしくは消費する資源



出典: R1港湾統計

電子部品等出荷額ランキング



出典: R1工業統計調査

やがみおおはし

国道251号 矢上大橋(長崎県橋梁長寿命化修繕計画)【補助】

やがみおおはし

■国道251号矢上大橋は緊急輸送路である国道251号に位置する橋梁であり、1985年(橋齢36年)の架橋から老朽化が進み、早期に措置を講ずべき状態(判定区分Ⅲ)。

■矢上大橋は、支承部の腐食など劣化が著しく進行していることから、補正予算の充当により、支承取替え等の修繕工事を推進することで、緊急輸送道路の機能強化や地域防災上の安全、安心の確保を図るとともに、予防保全型メンテナンスへの早期転換を図る。

《代表箇所》

- 事業箇所：矢上大橋(橋長:186m)
- 架設年次：1985年
- 判定区分：Ⅲ(2020年度)
- 路線名：国道251号
- 所在地：長崎県長崎市
- 全体事業費：3.0億円
- R3補正：0.5億円

《事業箇所》



全景(写真①)

《長寿命化修繕計画》

- 計画の名称
：長崎県橋梁長寿命化修繕計画
- 事業主体：長崎県
- R3補正：9.6億円

《現状状況写真》



支承の腐食

《対策イメージ》



支承の取替

《位置図》



《平面図》



九州横断自動車道延岡線 嘉島JCT～矢部【直轄】

- 九州横断自動車道延岡線（九州中央自動車道）は、熊本県上益城郡御船町を起点とし宮崎県延岡市に至る延長約95kmの高速自動車国道であり、九州における循環型高速ネットワークを形成し、九州全体の産業、経済、文化の発展に資する道路。
- 災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、九州横断自動車道延岡線嘉島JCT～矢部（山都中島西IC～(仮称)矢部IC間）において改良工事を実施することで、令和5年度の開通を確実に道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》



九州横断自動車道 延岡線
嘉島JCT～矢部

熊本県

《諸元等》

事業区間：熊本県上益城郡嘉島町～
上益城郡山都町

延長：23.0km
全体事業費：1,002億円
R3補正：27.9億円

《整備効果》

- 並行する国道445号では災害等により、過去10年間で13回の全面通行止めが発生。平成28年に発生した熊本地震では、国道218号と国道445号の同時通行止めが発生。
- 災害時における山都町～熊本市間の信頼性の高い道路ネットワークの機能強化を推進。

■熊本地震時における山都町から熊本市への移動ルート

《平面図》



令和5年度開通予定
(山都中島西IC～矢部IC(仮称))

延長1.8km H26.3'供用
延長10.8km H30.12'供用
延長10.4km

異常気象時における通行規制区間
延長13.9km

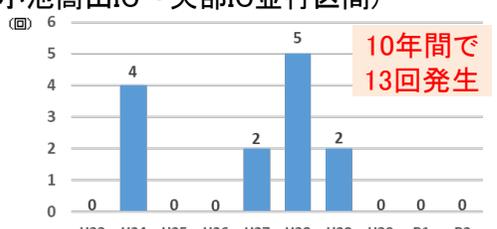
凡例
 高規格道路(高規格幹線道路)
 一般国道
 開通区間
 事業区間
 調査中区間
 全面通行止め(H23以降)

《現地状況写真》



▲写真
災害発生状況 国道445号(平成28年4月熊本地震)

■国道445号の全面通行止め発生状況(小池高山IC～矢部IC並行区間)



区間	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
発生回数	0	4	0	0	2	5	2	0	0	0

10年間で13回発生

資料：熊本県提供

国道3号 植木バイパス・熊本北バイパス【直轄】

■国道3号植木バイパス・熊本北バイパスは、熊本都市圏の環状道路網の一部となり熊本市の交通混雑の緩和及び交通安全性の向上等を目的とする道路。

■迅速かつ円滑な物流・人流を確保するため、補正予算の充当により、国道3号植木バイパスの改良工事・舗装工事及び国道3号熊本北バイパスの舗装工事を推進することで、熊本西環状道路～須屋高架橋交差点間の令和4年度の開通を確実にし、地方を支える産業等の生産性向上に寄与する道路ネットワークの整備を推進。

《位置図》



《諸元等》

【植木バイパス】
 事業区間：熊本県熊本市北区植木町鞍掛～熊本市北区四方寄町
 延長：5.6km
 全体事業費：308億円
 R3補正：7.9億円

【熊本北バイパス】
 事業区間：熊本県熊本市北区四方寄町～熊本市東区新南部4丁目
 延長：7.6km
 全体事業費：814億円
 R3補正：0.7億円（熊本県0.0億円、熊本市0.7億円）

《路線位置図》



《整備効果》

■広域交通ネットワークの形成



■地域産業の生産性向上を支援



■交通混雑の緩和



▲旅行速度の変化
 ※旅行速度対象区間：国道3号植木バイパス並行現道・熊本北バイパス事業中区間
 資料：現況H31 (ETC2.0プローブデータH31.4～R2.3:平日混雑時) 完成後 (将来交通量推計結果)



▲熊本北バイパス事業中区間の渋滞状況



▲植木バイパス並行現道の渋滞状況

国道212号 三光本耶馬溪道路【直轄】

■三光本耶馬溪道路は、大分自動車道と東九州自動車道及び重要港湾中津港とを相互に連絡する高規格道路中津日田道路の一部を構成し、物流の効率化及び広域観光の振興を支援するとともに、災害に強いネットワークの構築を目的とする道路。

■災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、国道212号三光本耶馬溪道路の改良工事、トンネル設備工事等を実施することで、田口IC～青の洞門・羅漢寺IC間の令和5年度の開通を確実にし、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》

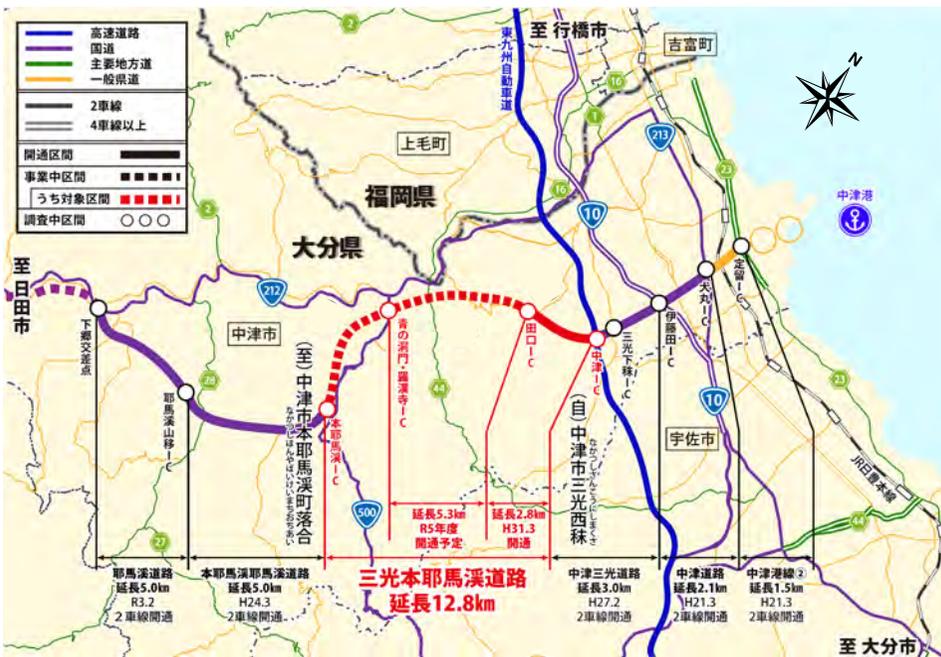


《諸元等》

事業区間：大分県中津市三光西秣
～中津市本耶馬溪町落合

延長：12.8km
全体事業費：556億円
R3補正：19.8億円

《路線位置図》



《整備効果》

●：災害による全面通行止め ※1

国道212号（事業中区間付近の並行現道）では豪雨等により、路肩崩落等の災害が発生しており、1年あたり約10日間の全面通行止めが発生※1

写真① R2.4被災
写真② H29.7被災
写真③ R2.1被災

上毛SIC
三光支所
道の駅 なかつ
中津市
定留IC
犬丸IC
伊藤田IC
三光下秣IC
中津IC
E10

青の洞門・羅漢寺IC
田口IC～青の洞門・羅漢寺IC
R5年度開通予定

耶馬溪山移IC
本耶馬溪IC

耶馬溪道路 R3.2開通
本耶馬溪耶馬溪道路 R24.3開通
三光本耶馬溪道路 事業中

国道212号の災害時の代替路として耶馬溪道路、本耶馬溪耶馬溪道路、三光本耶馬溪道路が一体的に機能

※1：H23～R2（10年間）の災害実績



写真①：R2.4 落石



写真②：H29.7 冠水



写真③：R2.1 法面崩壊

大分東九州自動車道 維持管理(防災・減災対策)【直轄】

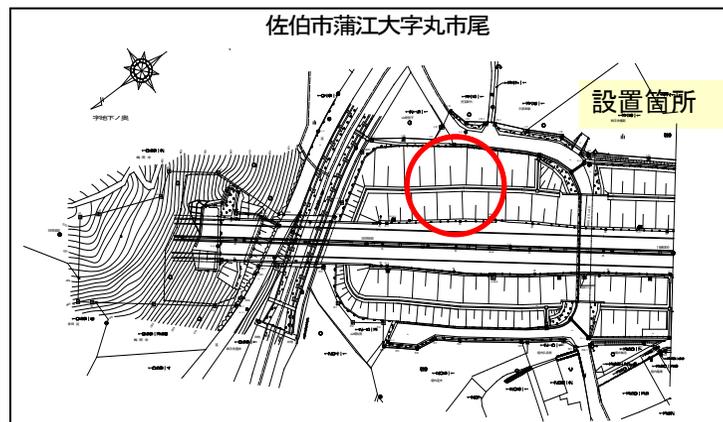
■東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点とし鹿児島県志布志市に至る全長約436km(うち九州地方整備局管理延長約100km)の高速自動車国道であり、第一次緊急輸送道路に指定。

■直轄国道の高架区間等を避難施設として活用するため、補正予算の充当により東九州自動車道大分県佐伯市蒲江地区において、避難階段整備を実施することで、津波や洪水からの緊急避難場所を確保。

《位置図》



《平面図》



《諸元等》

事業区間	: 大分県 <small>さいき</small> 佐伯市
延長	: 約30km
R3補正	: 0.16億円

《現状》

全景



《対策イメージ》



国道212号 日田山国道路【補助】

■中津日田道路は、周防灘地方生活圏と日田玖珠地方生活圏の連携強化及び、大分自動車道、東九州自動車道及び重点港湾中津港との連絡性の強化に資する約50kmの高規格道路である。日田山国道路は、災害による全面通行止め箇所、冬期の凍結多発区間、道路防災点検要対策箇所及び線形不良箇所を回避することにより、生活圏の連携強化、大分自動車道及び重点港湾中津港へのアクセス強化による産業の活性化を目的とした道路。

■災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行確保するため、補正予算の充当により、日田山国道路の改良工事を実施することで、道路ネットワークの機能強化を推進。

《平面図》



《位置図》



《諸元等》

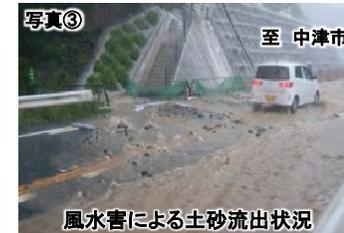
事業区間 : 大分県中津市山国町大字守実 ~ 日田市大字三和

延長 : 8.8km

全体事業費 : 338億円

R3補正 : 7.0億円

《現地状況写真》



《整備効果》

- 地域産業の活性化を支える効率的な物流ネットワークの強化により物流輸送時間が3.5万時間/年減少
- 災害、事故等に対する信頼性の高い道路ネットワークの形成
- 高次救急医療施設へのアクセス向上により、中津市・日田市にて第3次医療施設まで60分で到達できない人が40%減少



凡例(地高)		凡例(現道課題)	
開通区間	——	▲	要対策箇所
対象区間	----	■	線形不良箇所
事業中区間	-----		
調査中区間	○○○○		

国道10号 都城道路(Ⅱ期)【直轄】

- 都城道路(Ⅱ期)は、高規格道路都城志布志道路の一部を構成し、九州縦貫自動車道宮崎線との結節による物流の効率化を図るとともに、市街地の交通混雑解消及び沿道環境改善を目的とする道路。
- 災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、国道10号都城道路(Ⅱ期)の改良工事を実施することで、令和6年度の開通を確実にし、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》



《諸元等》

事業区間	宮崎県都城市高木町 ～都城市乙房町
延長	5.7 km
全体事業費	258 億円
R3補正	12.5 億円

《平面図》



《被災状況等》



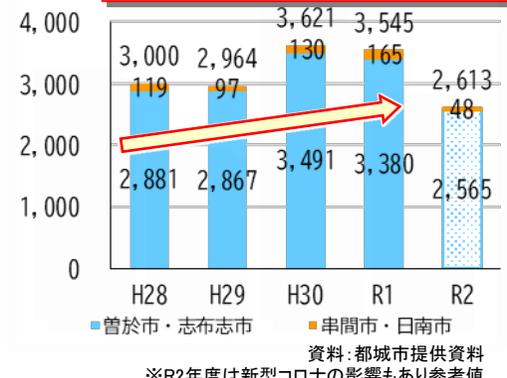
《効果》

○本路線の整備により、高次医療施設への搬送時間短縮(約27分⇒約12分)が図られるとともに、搬送時の揺れや振動も抑えられ、患者の安静な搬送が期待される。



▲『都城市郡医師会病院』(H27.4月移転)

都城志布志道路の開通に伴い 周辺地域からの来院者数が増加傾向



【未来を切り拓く「新しい資本主義」の起動】

国道220号 日南・志布志道路【直轄】

- 日南・志布志道路は、地域観光の発展に寄与するとともに、木材輸送など産業活動を支援し、並行する国道220号の縦断線形不良箇所や事故率の高い箇所等を回避する安全で円滑な高速ネットワークの形成を目的とする道路。
- 迅速かつ円滑な物流・人流を確保するため、補正予算の充当により、国道220号日南・志布志道路の改良工事、橋梁下部工事を推進することで、地方を支える産業等の生産性向上に寄与する道路ネットワークの整備を推進。

《位置図》



《諸元等》

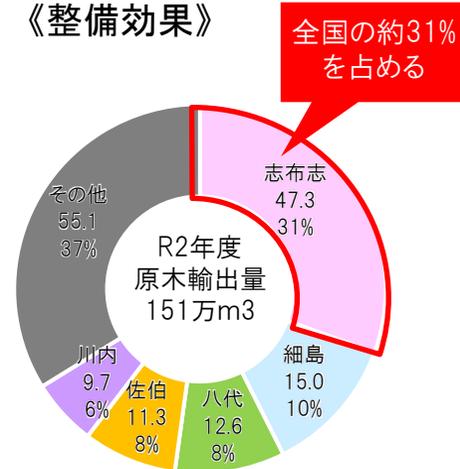
事業区間：宮崎県日南市大字東弁分
 ～日南市大字平野
 鹿児島県志布志市志布志町帖
 ～志布志市志布志町志布志

延長：6.9 km
 全体事業費：319億円
 R3補正：21.3億円
 (宮崎県：15億円, 鹿児島県：6.3億円)

《路線位置図》

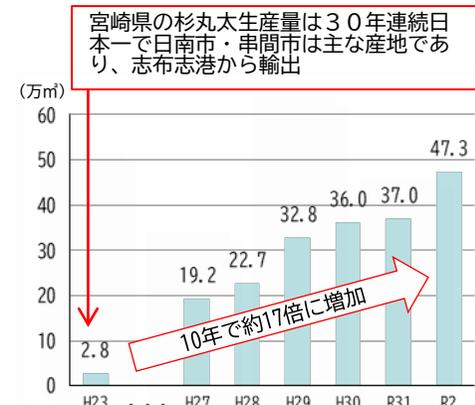


《整備効果》



▲志布志港輸出割合

出典：貿易統計(R2年度)



▲志布志港における木材(丸太)の輸出量推移

出典：各年貿易統計



▲日南方面～志布志港へ木材を輸送



▲木材を輸出(志布志港)

【防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保】

宮崎10号 電線共同溝【直轄】

- 無電柱化は、防災、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図ることを目的として事業を推進。
- 当該箇所の無電柱化を図ることで、災害時における緊急輸送道路の確保並びに安全で快適な通行空間の確保を図るとともに、良好な都市景観の形成に向けたまちづくりを支援。

○国道10号 甲斐元地区電線共同溝

《位置図》

《諸元等》

事業区間：宮崎県都城市甲斐元町
 ～宮崎県都城市甲斐元町
 整備延長：0.5km（両側）
 全体事業費：約10億円
 R3補正：1.6億円



甲斐元地区電線共同溝

○整備の必要性

○道路上の電柱は、災害時の倒壊により道路を閉塞させるおそれがあるほか、歩行者等の通行や良好な都市景観の形成の妨げとなる



<電柱の倒壊による道路閉塞の事例> <飛来物による電柱倒壊の事例> <歩行の支障となる電柱の事例>

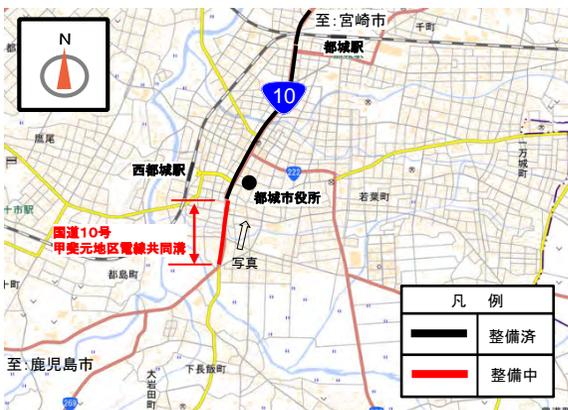
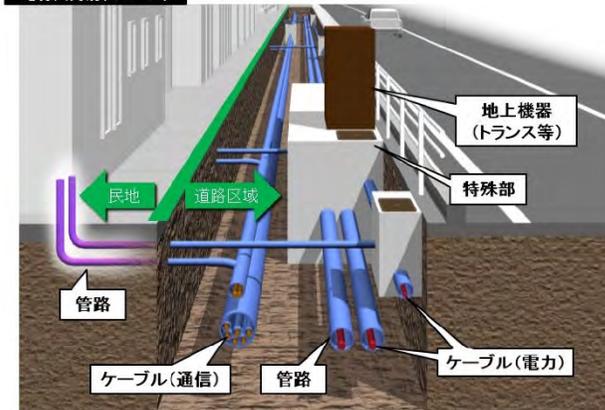
《路線位置図》

《現地状況》

○電線共同溝とは

道路の地下空間を活用して電力線、通信線等をまとめて収容

電線共同溝(イメージ)



※工事着手前

【防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保】

国道3号 阿久根川内道路【直轄】

■阿久根川内道路は、南九州西回り自動車道の一部を構成し、九州西部の地域経済の活性化及び高速定時制性の確保を目的とする道路。

■災害時においても速やかに緊急車両や一般車両の通行を確保するため、補正予算の充当により、国道3号阿久根川内道路の改良工事、橋梁下部工工事を実施することで、道路ネットワークの機能強化を推進。

《位置図》

《諸元等》

《整備効果》



事業区間：	鹿児島県阿久根市鶴川内 ～薩摩川内市水引町
延長：	22.4 km
全体事業費：	1,050億円
R3補正：	16.3億円

■災害時の避難路、緊急輸送道路を確保

《路線位置図》



凡例	
⊗	津波浸水想定範囲箇所
⊙	防災点検要対策箇所
×	通行規制実績(10年間) ※平成23年～令和2年

① 写真撮影箇所
及び撮影方向



写真①：法面崩壊状況



写真②：大雨による冠水状況



写真③：大雪による混雑状況

国道220号 益丸^{ますまる}自歩道整備事業【直轄】

- 当該箇所は、地元の小学校の通学路として指定されているが、狭小歩道が存在するために歩行者等の安全が確保されておらず、関係機関等によるR3通学路点検において、対策必要箇所とされている。
- 本事業において、既設歩道の拡幅をすることにより、歩行者の安全な通行を確保するものである。

《位置図》



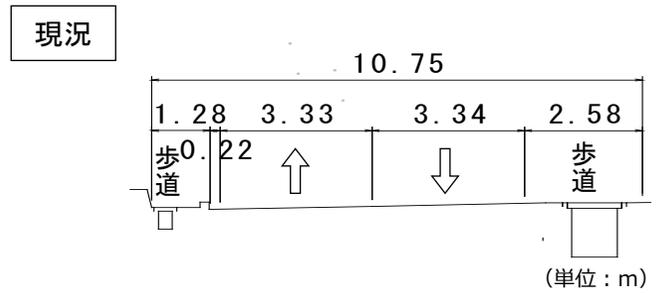
《現地状況写真》



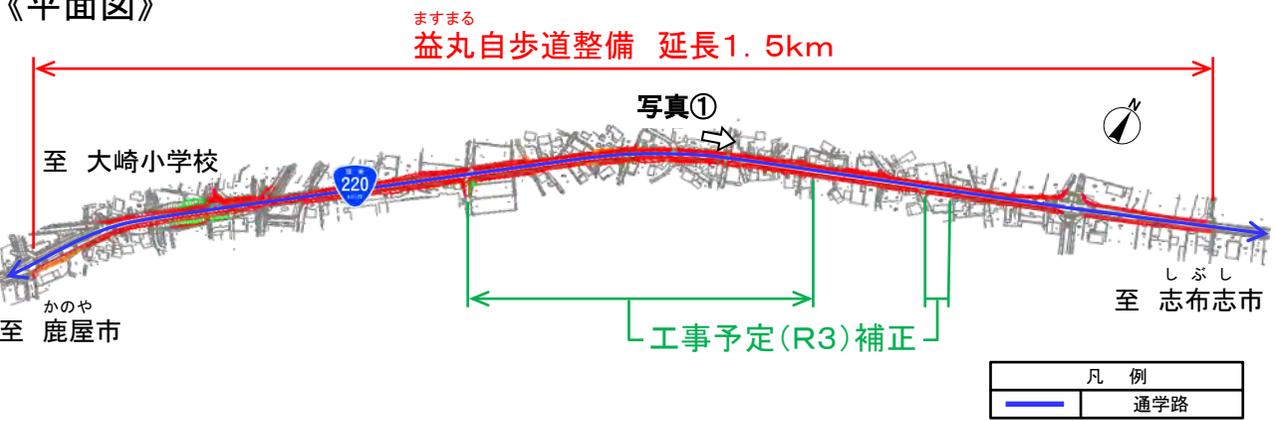
《諸元等》

事業区間	鹿児島県曾於郡大崎町益丸 ^{そ お ぐん おおさきちやう ますまる}
延長	1.5km
R3補正	0.8億円

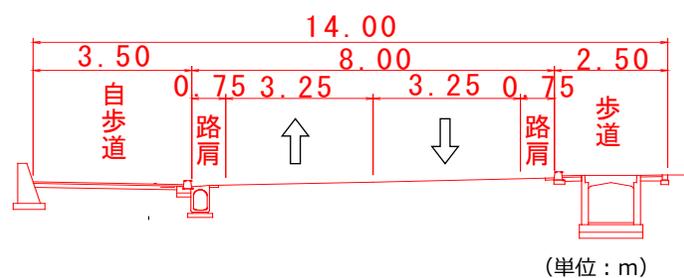
《計画横断図》



《平面図》



計画



【防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保】

鹿児島3号 維持管理(防災・減災対策)【直轄】

■国道3号は、福岡県北九州市を起点とし鹿児島県鹿児島市に至る全長約470kmの主要幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に指定。

■豪雨時、通行止が長期化する渡河部の橋梁流失等の災害リスクがあると判断された国道3号下井手橋において、しもいでばし洗堀防止対策工等の洗堀・流失対策を実施することで、豪雨による災害発生の防止を図る。

《位置図》



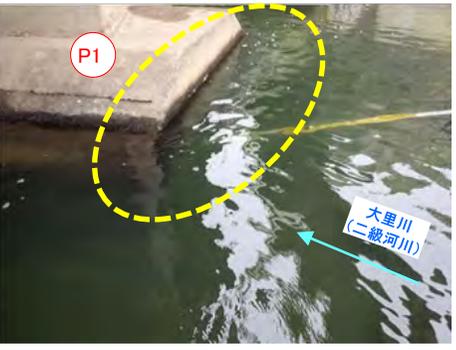
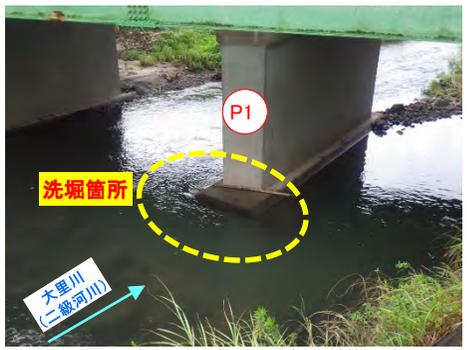
《平面図》



《諸元等》

事業区間 : 鹿児島県出水市
 ~ 鹿児島県鹿児島市
 延長 : 約147km
 R3 補正 : 2.9億円

《現状》



《対策イメージ》

